

うさぎとかめ

2023. 6. 19

うさぎとかめの童話がある。あまりにも有名である。ある人が言った。「うさぎとかめの童話があるだろう。うさぎは、どうしてのろまなかめに負けたのか、言ってごらん」皆さんなら、何と答えるだろうか。「うさぎにはいつでも勝てると油断があったのです。人生は油断をしてはいけないという戒めです」こう答える人も多いだろう。

ある人は、こう話した。「かめにとって相手はうさぎでもライオンでも何でもよかったはずだ。なぜなら、かめは一遍も相手を見ていないんだよ。かめは旗の立っている頂上、つまり人生の目標だけを見つめて歩き続けた。一方のうさぎはどうだ。絶えずかめのことばかり気にして、大切な人生の目標をたった一度も考えることをしなかったんだよ。賢いかめになって歩き続けなさい」さらには、「どんな急な坂道があっても止まってはだめだよ。苦しいときには、ああ何と有り難い急な坂道なんだ。この坂道は俺を鍛えてくれているのではないか、と感謝しなさい。有り難いというのは、難が有るから有り難いんだよ」と話した。

うさぎとかめの話は、イソップ寓話にも収められている。日本で一般的に知られるようになったのは、明治になって教科書に採録されてからである。明治時代の初等科の国語の教科書には、「油断大敵」というタイトルで掲載されていた。この話は、日本の童謡にもなっているため、広く知られている。

この話には、「負けウサギ」という続きもある。カメに負けたウサギは恥さらしだということで、ウサギの仲間から追われてしまう。しかし、そのウサギたちをねらうオオカミを知恵を使って撃退し、名誉挽回するという話である。

寓話には、教訓めいたメッセージが入っている。自信過剰で物事に取り組んではいけないこと、コツコツとまじめに努力することの2つは、よく言われることである。加えて、競争相手ではなくゴールを見ることも入る。目先のものだけを見るのではなく、自分が何を目指しているのかを考えることが重要であるということだろう。この話には、他にも様々な教訓があると言われている。

同じ話でも、考え方によっては、深いメッセージとなる。子どもでもわかるようなシンプルなストーリーに見えて、実は複数の考えさせられる教訓などが隠されている。ものの見方や考え方を鍛えられる話である。中学生に考えさせたら、どのようなものが出てくるだろう。機会があったら、考えさせてみたい。